

令和7・8年度
羽生市教育委員会・羽生市教育研究会委嘱

学 習 指 導 案 綴

「わかった」「できた」を実感できる算数科の授業改善
～基礎基本の定着と学習意欲の向上～



令和8年10月28日（水）
羽 生 市 立 岩 瀬 小 学 校

第6学年1組 算数科学習指導案

令和8年10月28日（水）第5校時

授業者 教諭 根岸 義克

在籍児童数 27名

活動場所 6年1組教室

1 単元名 比例の関係をくわしく調べよう〔比例と反比例〕

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領第6学年の目標及び内容C(1)比例を受けている。その内容は、以下のように位置付けられている。

第6学年 C 変化と関係

(1) 伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 比例の関係の意味や性質を理解すること。

(イ) 比例の関係をを用いた問題解決の方法について知ること。

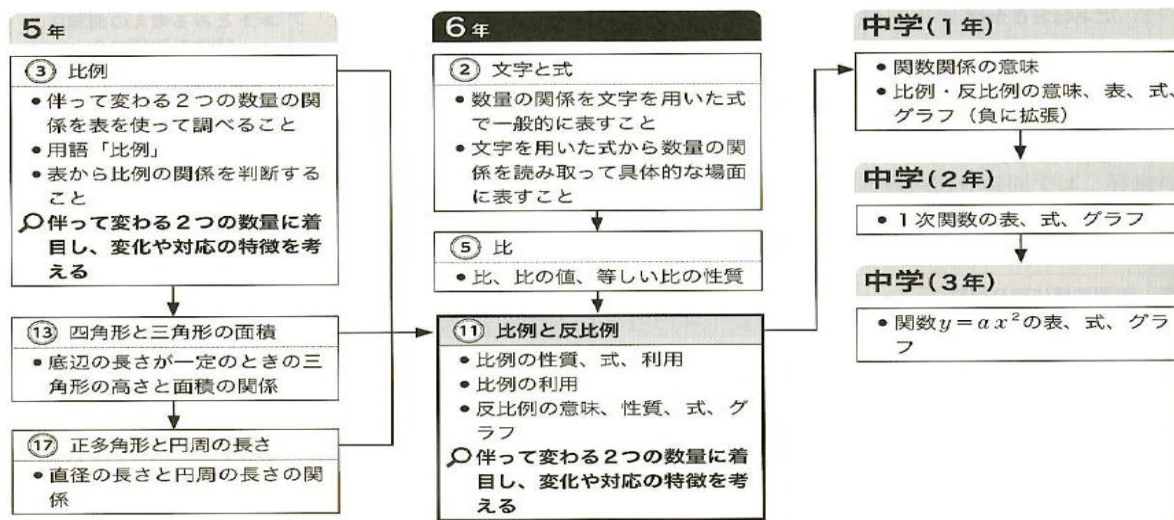
(ウ) 反比例の関係について知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現して、変化や対応の特徴を見いだすとともに、それらを日常生活に生かすこと。

本単元では、比例の関係の意味や性質、比例の関係をを用いた問題解決の方法、反比例の関係について理解することをねらいとしている。また、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いて問題を解決する力を伸ばすこともねらいとしている。日常の場面を比例の関係とみることで、問題を解決する見通しを立てたり、手際よく問題を解決したりすることができる教材である。

本単元の系統の前後関係は以下の通りである。



(2) 児童観

本学級の児童は、算数科に対して意欲的な児童がいる一方で、文章問題の内容を把握することに課題があり、苦手意識をもっている児童も多く、学力の差も大きい。1つの解き方だけでなく、図や式、言葉を使って、様々な方法から解決しようとする児童と、問題を書いて思考を止めてしまう児童がいる実態がある。県学調の結果から学習課題に取り組む際には、既習事項と関連させて考えることや、自分なりの考え方や解き方を図や式、言葉で表現し、説明する児童が増えていることがわかった。その一方で、問題や式を書くことはできるが、解き方が分からず、困り感を抱えている児童の様子が見られる。また、自分の考えを全体で発表することに抵抗があり、発表する児童に固定化が見られる。

本単元につながる既習事項がどれだけ理解できているのかを把握するために行ったレディネステストの結果は以下の通りである。

調査日 令和8年8月31日 調査人数26名

問題	正答（正答数）	誤答例												
①時速60kmの自動車があります。次の問題に答えましょう。 ①走る時間を□時間、進む道のりを○kmとして、道のりを求める式を書きましょう。	$60 \times \square = \bigcirc$ $\bigcirc = 60 \times \square$ (14名)	$\bigcirc \times \square$ （1名） $\square \times \bigcirc$ （1名） $\bigcirc \times \square = \bigcirc$ （1名） $\square \times \bigcirc = x$ （1名） $\bigcirc \times \square = y$ （1名） $60 \times \square$ （1名） $60 \times \bigcirc = \square$ （2名） $60 \div \bigcirc = \square$ （1名） $\bigcirc \div \square$ （1名） 無回答（2名）												
②□が1、2、3、4と変わると、○はそれぞれいくつになりますか。 <table><tr><td>走る時間□(時間)</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td></td></tr><tr><td>進む道のり○(km)</td><td>60</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	走る時間□(時間)	1	2	3	4		進む道のり○(km)	60					順に 120、180、240（21名）	70、80、90（1名） 61、62、63（1名） 120、180、140（1名） 無回答（2名）
走る時間□(時間)	1	2	3	4										
進む道のり○(km)	60													
③走る時間が2倍、3倍、4倍になると、進む道のりはどのように変わりますか。	2倍、3倍、4倍になる（21名）	2倍に増える（1名） ×2倍になる（1名） 無回答（3名）												
④進む道のりは、走る時間に比例していますか。	比例している（23名）	誤答（0名） 無回答（3名）												
⑤走る時間が6.5 時間のときに進む道のりを求めましょう。	390km（14名）	3（1名）16.25（1名） 39（1名）65.5（1名） 180（1名）290（1名） 360（1名）3900（1名） 無回答（4名）												
⑥進む道のりが90kmのと	1.5 時間（11名）	5（1名）9（1名）												

きの走る時間を求めましよう。		15（1名）30（1名） 33（1名）180（6名） 無回答（4名）										
2□にあてはまる数を書きましよう。 ①18：6＝3：□	1（20名）	2（1名）3（1名） 8（1名）9（1名） 無回答（2名）										
②27：12＝□：4	9（21名）	3（2名） 無回答（3名）										
③4：10の比の値は□です。	$\frac{2}{5}$ （10名）	$\frac{4}{10}$ （12名） 2（2名） 無回答（2名）										
④2：1.5の比の値は□です。	$\frac{4}{3}$ （10名）	$\frac{20}{15}$ （2名） $\frac{2}{15}$ （6名） $\frac{2}{1.5}$ （1名）0.5（1名） 6（1名） $2\frac{1}{5}$ （1名） 無回答（4名）										
3下の表は、面積が24cm ² の長方形の縦と横の長さの関係をまとめたものです。 <table><tr><td>縦x（cm）</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>横y（cm）</td><td>24</td><td>12</td><td>8</td><td>6</td></tr></table> ①横の長さは、縦の長さに反比例していますか。	縦x（cm）	1	2	3	4	横y（cm）	24	12	8	6	反比例している （15名）	反比例していない（6名） 無回答（5名）
縦x（cm）	1	2	3	4								
横y（cm）	24	12	8	6								
②yをxの式に表しましよう。（未習）	y＝24÷x（2名）	x×y＝24（4名） x×y（5名） x×□＝y（2名） 24×x＝y（1名） y＝決まった数×x（1名） y÷x（2名） y÷x＝y（1名） y÷x＝○（1名） y＝x（1名） 無回答（6名）										

以上の結果から、比例の概念や比例の関係を表す表の穴埋め、比については多くの児童が理解している。しかし、①①比例の関係を表す式や②③、④比の値については、課題が見られる。本単元では、既習学習と関連付けながら、伴って変わる2つの数量を見出して、

比例・反比例の関係に着目し、どのようなきまりがあるのかを考察し、考える力を伸ばしていく必要がある。

(3) 指導観

レディネステストの結果より、比例の概念理解は見られるものの、「比例の関係を式に表すこと」や「比の値」に課題が見られる。そこで本単元では、伴って変わる二つの数量について、表を「横に見る（変化）」だけでなく「縦に見る（対応）」見方を働かせ、商が常に一定であることに着目させる。これにより、「 $y = \text{決まった数} \times x$ 」という式化の理解を確実に図る。また、決まった数が $x=1$ のときの y の値を表すという割合の意味と結び付け、数直線や表を活用して視覚的に捉えさせる。思考に困り感のある児童へはヒントカードや話型を活用し、図・式・言葉を相互に関連付けながら説明し合う活動を通して、関数的な見方・考え方を深めさせていく。

3 研究主題との関わり

(1) 研究主題

「わかった」「できた」を実感できる算数科の授業改善
～基礎基本の定着と学習意欲の向上～

(2) 研究の仮説に関する具体的な手立て

仮説 1：学びの定着を図る工夫を取り入れれば、基礎基本の定着が図られ、児童が「わかった」「できた」の実感をもつことができるだろう。

【手立て】

基礎基本の定着を図るために、授業の最初に本時に関連するいわまるプリントを行う。また、前時の振り返り(いわまる)から内容を想起させる。適用問題では、 x が 1、2、3 と順に入り、それを対応する y の値もすべて埋まった表を扱い、きまりを見つけて式に表す工夫をする。自分なりの方法で全員がきまりを見つけれ、式に表せたことから、「できた」という実感につながられるようにする。

仮説 2：児童が学ぶ楽しさやよさをあじわわせる工夫を図れば、児童の学ぶ意欲が高まり、「わかった」「できた」を実感することができるだろう。

【手立て】

児童が教師との対話の中から学習課題を見いだすことで、ゴールを見据えて主体的に学ぶことができるようにさせる。また、ICT 機器で図や表などを提示することで児童の問題把握等の理解を促し、自分の考えを表現したり説明したりすることにより、「わかった」を実感できるようにさせる。さらに、児童の実態に応じてヒントカードを活用することで、どの児童でも自ら思考ができるよう手助けをする。きまりを見つけ、 x を y に式に表すことで y の値をすぐに求めることができるなどの良さをあじわわせるようにする。

4 単元の目標

- (1) 比例の関係の意味や性質を理解し、比例の関係をういた問題解決の方法や、反比例の関係について知ることができる。〈知識及び技能〉
- (2) 伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現して、変化や対応の特徴を見いだすとともに、それらを日常生活に生かすことができる。〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 伴って変わる二つの数量について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。〈学びに向かう力、人間性等〉

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比例の意味として、二つの数量A、Bがあり、一方の数量が2倍、3倍、4倍、…と変化するのに伴って、他方の数量も2倍、3倍、4倍、…と変化し、一方が、$1/2$、$1/3$、$1/4$、…と変化するのに伴って、他方も、$1/2$、$1/3$、$1/4$、…と変化することを理解している。 ②二つの数量の対応している値の商に着目すると、それがどこも一定になっていることを理解している。 ③比例の関係を表す式が、$y = (\text{決まった数}) \times x$という形で表されることや、グラフが原点を通る直線として表されることを理解している。 ④比例の関係を利用することで、手際よく問題を解決できる場合があることや、比例の関係をういて問題を解決していく方法を知っている。 ⑤反比例の意味として、比例の場合に対応して、二つの数量A、Bがあり、一方の数量が	①伴って変わる二つの数量について、比例の関係にある数量を見いだしている。 ②比例の関係をういて問題を解決する際に、目的に応じて、式、表、グラフなどの適切な表現を選択して、変化や対応の特徴を見いだしている。 ③日常生活や算数の学習などの比例が活用できる場面において、比例の関係を生かして問題を解決している。 ④比例をういた問題解決の方法や結果を評価し、必要に応じて、目的により適したものに改善している。	①生活や学習に、比例が活用できる場面を見付け、能率のよい処理の仕方を求め、積極的に比例の関係を生かしていこうとしている。 ②目的に応じて適切な表現を用いるなど、式、表、グラフの表現の特徴やそのよさに気付いている。 ③問題解決の方法や結果を評価し、必要に応じて、目的により適したものに改善していこうとしている。

2倍、3倍、4倍、…と変化するのに伴って、他方の数量は、$1/2$、$1/3$、$1/4$、…と変化する、一方が、$1/2$、$1/3$、$1/4$、…と変化するのに伴って、他方は、2倍、3倍、4倍、…と変化することを知っている。 ⑥二つの数量の対応している値の積に着目すると、それがどこも一定になっているということを知っている。 ⑦反比例の関係を表す式が、$x \times y = (\text{決まった数})$という形で表わされることや、グラフについて、比例のグラフとの違いを知っている。		
---	--	--

6 指導と評価の計画（16時間）

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		・指導に生かす評価 ○記録に残す評価		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1小単元 比例の性質				
1	○比例の性質について理解することができる。 ・比例の関係に着目し、小数倍、単位分数倍の時も、倍の関係が成り立つか考える。	・知①（行動観察、ノート分析）	・思①（行動観察、ノート分析）	
2	○比例の性質について理解する。 ・二つの数量の変わり方の割合に着目し、比例の関係について考える。	・知①（ノート分析）	・思①（行動観察、ノート分析）	
第2小単元 比例の式				
③ 本時	○ y が x に比例するとき、 $y = \text{決まった数} \times x$ と表せることを理解し、比例の関係の式に表すことができる。 ・比例の関係のときに成り立つきまりに着目し、比例の式や「決まった数」の多様な意味について考える。	・知②（ノート分析）	・思②（行動観察、ノート分析）	
第3小単元 比例のグラフ				

4 ・ 5	○比例の関係をグラフに表して考查することができ、比例のグラフの特徴を理解することができる。 ・比例の関係にある二つの数量の値に着目し、比例のグラフの特徴を捉える。 ・比例のグラフに着目し、それぞれの特徴や事象の様子を考える。	・知③（ノート分析）	○思①（ノート分析、行動観察）	
6 ・ 7	○比例のグラフの考察を通して、比例のグラフについての理解を深めることができる。 ・2本の比例のグラフに着目し、それぞれの特徴や事象の様子等を考える。 ・比例関係に着目し、問題を解決する。		○思②（ノート分析、行動観察）	○態②（行動観察、ノート分析）
第4小単元 比例の利用				
8 ・ 9	○比例の関係を活用した問題解決の方法を考え、表や式を用いて説明することができる。 ・比例の関係にある数ろうを見いだし、問題解決を図る。 ・比例関係に着目し、問題を解決する。	・知④（行動観察、ノート分析）	○思③（ノート分析、行動観察）	○態③（行動観察、ノート分析）
第5小単元 練習				
10	○学習内容を適用して問題を解決することができる。 ・学習内容を適用して問題を解決する。（練習問題）	・知①②③④（ノート分析）		○態①（行動観察、ノート分析）
第6小単元 反比例				
11	○反比例の意味について理解することができる。 ・二つの数量に着目し、反比例について考える。	・知⑤（ノート分析）		
12	○反比例の性質について理解することができる。 ・反比例する二つの数量の関係に着目し、反比例の性質について考える。	・知⑤（ノート分析）		
13	○yがxに反比例するとき、$y = \text{決まった数} \div x$と表すことを理解し、反比例の関係を式に表すことができる。 ・反比例のときに成り立つきまりに着目し、反比例の式や関係について考える。	・知⑥（ノート分析）	・思④（ノート分析、行動観察）	

1 4	○反比例の関係をグラフに表して考察することができ、反比例のグラフの特徴を理解することができる。 ・反比例の関係にある二つの数量の値に着目し、反比例のグラフの特徴について考える。	・知⑦（ノート分析、行動観察）		
1 5	○学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値付ける。 ・学習内容の習熟と定着を図る。 ・数学的な見方・考え方を振り返る。	・知①②③④⑤⑥⑦（ノート分析、行動観察）	○思④（ノート分析、行動観察）	○態③（ノート分析、行動観察）
まとめ				
1 6	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。（評価テスト） ・テストを通して学習内容を振り返る。	○知①②③④⑤⑥⑦（ペーパーテスト）	○思③④（ペーパーテスト）	

7 本時について（本時 3 / 1 6 時）

（1）本時の目標

比例の関係の意味や性質を理解することができる。

〈知識及び技能〉

比例の関係をを用いて問題を解決する際に、目的に応じて、適切な表現を選択して、変化や対応の特徴を見いだしている。

〈思考力、判断力、表現力等〉

（2）人権教育上のねらい（普遍的な課題「人間関係づくり」）

お互いのよさやちがいを認め合い、より良い人間関係の基礎を身に付ける。

（3）人権教育上の視点(態度)

人にはそれぞれの考え方に違いがあることを知り、お互いのよさを認め合い、大切にする。

（4）小中一貫教育の視点

本単元は、第5学年で比例、第6学年で文字と式、比、比例と反比例と発展している。中学1年の関数関係の意味、中学2年の1次関数の表、式、グラフ、中学3年の関数 $y = ax^2$ の表、式、グラフにつながることを意識して指導にあたる。

（5）展開

★人権教育上の配慮事項

学習活動	教師の発問（◎） 予想される児童の反応（・）	評価規準（◇） 支援（⇒） 仮説にせまる手立て（☆） 指導上の留意点（○）	時間
1 いわまるプリントに取り組む。		○基礎的な力の定着のために取り組ませる。児童の伸びを教師は把握し指導に生かす。	2

2	問題を把握し、課題を見いだす。		○前時の学習を振り返り、違いを明確にする。 ☆前時の振り返りから内容を想起させる。	5																									
	151ページの◎で、水を入れる時間が23分のときの、水そうの水の量を求めましょう。																												
3	見通しをもつ。	◎水を入れる時間が23分のとき、水槽の水の量を求めましょう。 ・前の時間で学んだ、比例の性質が使える。 ・xとyの関係から考えることはできる。 ・求めるのが大変そう。 ◎前回の問題と違うところはどこでしょう。 ・前回は性質を学んだ。 ・今回は計算しないといけない。	○前時との違いを明らかにすることでめあてを見いだす。	5																									
	yがxに比例するとき、xとyのきまりを見つけて、式で表そう。																												
4	自力解決をする。	◎どのようなことが使えそうですか。 ・表を使って関係を見つける。 ・表を縦にみる。 ・xやyを使って表す。 ◎比例の関係を式に表す方法を考えよう。 [考え方①] 表を使って、次のように求める。 <table border="1" data-bbox="528 1615 877 1686"> <tr> <td>x</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>8</td></tr> <tr> <td>y</td><td>4</td><td>8</td><td>12</td><td>16</td></tr> </table> 表を縦に見ると、xの値の2倍はいつもyの値になる。 [考え方②] <table border="1" data-bbox="528 1910 845 2020"> <tr> <td>x</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>8</td></tr> <tr> <td>y</td><td>4</td><td>8</td><td>12</td><td>16</td></tr> <tr> <td>$y \div x$</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	x	2	4	6	8	y	4	8	12	16	x	2	4	6	8	y	4	8	12	16	$y \div x$					○式で表す見通しが立たない場合は既習事項を使った式を想起させる。 ○表を活用することを促し、関係を式に表せるように指導をする。 ○机間指導をし、一人一人の考えを把握する。 ○表、言葉を使って自分の考えをノートに書かせる。	13
x	2	4	6	8																									
y	4	8	12	16																									
x	2	4	6	8																									
y	4	8	12	16																									
$y \div x$																													

	表を縦に見ると、y の値を x の値でわると、いつも 2 になる。	⇒自分の考えがもてない児童 表を縦に見て矢印を用いて表現させたり、ヒントカードの活用を促す。 ○ヒントカードを活用することで、どの児童でも自ら思考ができるよう手助けをする。	
5 それぞれの考えについて話し合う。	◎自分の考えを説明しましょう。 ・表を縦に見ると、x の値の 2 倍はいつも y の値になり、$x \times 2 = y$ になる。 ・表を縦に見ると、表を縦に見ると、y の値を x の値でわると、いつも 2 になり、$y \div x = 2$ になる。 ◎考え方の共通点がありますか。 ・式に表すことができる。 ・どちらも表を縦に見た。 ・かけ算やわり算だけど式は同じ。 ◎どちらかの考えを使って、水を入れる時間が 2 3 分のときの水の量を求めましょう。 ・$23 \times 2 = 46$ (L) ・$y \div 23 = 2$ $y = 2 \times 23$ $y = 46$ (L)	◇比例の関係を用いて問題を解決する際に、目的に応じて、式、表、グラフなどの適切な表現を選択して、変化や対応の特徴を見いだしている。 【思②】(行動観察・ノート分析) ○自分の考えをはっきりさせるために、全体への発表の前にペアで確認をさせる。 ★いろいろな考え方があることやそれぞれのよさを共有することで、お互いに認め合えるようにする。 ○表を確認し、縦に見たことでが関係を見いだせ、式に表せたことを確認する。	5
6 本時のまとめをする。	◎ x や y を使った式がどうなったのかをまとめましょう。	○児童の言葉でまとめることができるように、本時で学んだことを振り返りながら考えたことを出し合い、書くことができるようにする。	
y が x に比例するとき、y を x でわった商はいつも決まった数になる。 $y \div x = \text{決まった数}$ y を x の式で表すと、$y = \text{決まった数} \times x$		○表を縦に見ることにより、式になることが分かったことを価値付ける。	
	◎ $y \div x = 2$ の 2 にはどんな	○表を縦に見ながら決まった数	5

	意味がありますか。 ・ x が値が 1 のときの、y の値 ・ 1 分当たりに入れる水の量が、いつも 2 L ◎ x と y の関係を式に表すとどんなよいことがありますか。 ・ 計算ですぐに求めることができる。	の 2 の意味を考えさせる。 ☆考えを出し合い、式にするよさについてまとめる。 ⇒自分でまとめることが難しい児童には書き方の話型を配付し、穴埋めをしながら、まとめを書くことができるようにする。 ☆自分たちで学習課題やまとめを考えることで、学ぶ意欲が高まり、より「わかった」が実感できるようにする。															
x と y の関係を式で表すと、x の値に対応する y の値を計算ですぐに求めることができる。																	
7 適用問題に取り組み。	◎教科書 p. 155 の適用問題 ③をしましょう。	◇二つの数量の対応している値の商に着目すると、それがどこも一定になっていることを理解している。	5														
水を入れる時間が 17 分のときの水そうの水の量を求めましょう。																	
	17 分 式 $2 \times 17 = 34$ 答え 34 L	【知②】(ノート分析)															
決まった数を見つけて、y を x の式に表そう。																	
<table><tr><td>x</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>y</td><td>3</td><td>6</td><td>9</td><td>12</td><td>15</td><td>18</td></tr></table>		x	1	2	3	4	5	6	y	3	6	9	12	15	18		
x	1	2	3	4	5	6											
y	3	6	9	12	15	18											
	式 $y = 3 \times x$																
8 本時の学習の振り返りをする。	◎振り返りをノートに書きましょう。今日の学習で分かったこと、気付いたこと、もっと勉強したいと思ったことを書きましょう。また、今日の学習は、どの場面で生かすことができそうですか。「い・わ・まる」で振り返りましょう。	○本時の学習で学んだ決まった数を見いだす方法は 3 つあるが、x の値が 1 のときの y の値で決まった数を見だし、全員が「わかった」「できた」が実感できるようにする。 ☆本時の授業で適用問題に取り組む時間を確保し、一人一人を見とることで学習内容を確実に身に付けることができるようにする。 ○「い・わ・まる」を活用し、分かったことやさらに学習したいことなどを書かせることで、学びの実感をもたせる。 ⇒自分で書くことが困難な児童には、いわまるの振り返りの例を提示する。	5														

	• 比例の関係を式に表すことができる。 • 比例の関係を表す式が $y = \text{決まった数} \times x$ になる。 • y の値を x の値でわるといつも決まった数になる。 • x と y の関係を式を使って表すと、x に対応する y の値が計算ですぐに求めることができる。		
--	---	--	--

(6) 板書計画

10/28

問

151ページの㉔で、水を入れる時間が23分のときの、水そうの水の量を求めましょう。

水を入れる時間 エッラ x (分)	2	4	6	8
水そうの水の量 ワイ y (L)	4	8	12	16

見

- ・比例の性質が使えるかもしれない
- ・式に表せそう

課

y が x に比例するとき、 x と y の関係を見つけて、式を表そう。

自

x の値の あた $\square$ 倍は、いつも y の値になる。

x	2	4	6	8
y	4	8	12	16

$$x \times \square = y$$

y の値を x の値でわると、いつも $\square$ になる。

x	2	4	6	8
y	4	8	12	16
$y \div x$				

$$y \div x = \square$$

③

水を入れる時間が23分のときの

答え34L

$$\cdot 23 \times 2 = 46(\text{L})$$

$$\cdot y \div 23 = 2$$

$$y = 2 \times 23$$

$$y = 46(\text{L})$$

主

y が x に比例するとき、 y を x でわった商はいつも決まった数になる。

$y \div x = \text{決まった数}$
 y を x の式で表すと、
 $y = \text{決まった数} \times x$

x と y の関係を式で表すと、 x の値に対応する y の値を計算ですぐに求めることができる。

練

$$17 \text{分} \rightarrow 2 \times 17 = 34$$

x	1	2	3	4	5	6
y	3	6	9	12	15	18

$$\text{式 } y = 3 \times x$$

笑顔と挑戦

